

3月25日正午必着

明石春浦先生書



夜深寒氣烈

人語四鄰無

只有梅華在

書窓月不孤

寒気きびしい深夜、辺りに人声もない。書窓にさす月光に梅花がくつきりと浮かんで見える。

雨宮春聲先生書



紙墨相發。(孫過庭・書譜より)

紙と墨がうまく合って引き立て合うこと。



明石幸子書

風引^{かせはくうんをひいてざとうにかえり}白雲^{あめはかきをむしてそうざしる}歸^{かえり}坐榻^{ざた}雨蒸^{あめはかきをむして}花氣^{はなのかき}入^い窓紗^{そうさ} (王冕)

白雲を導いて風が椅子のところまで吹き来り、花の香気をこめた雨が窓かけにかかる。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

花老^{はな}啼鶯^{ていおう} (温新)

花は啼鶯に老ゆ

鶯の啼く頃ともなれば花も老い、春も漸く深くなった。

春雪^{しゅんせつ}滿^み空^{くう}來^き觸^ふ處^{ところ}似^に花^{はな}開^{ひら} (東方虬)

春雪空に滿ち來たり 觸處花の開くに似たり

雪中の梅をよんだものである。若箇は何ほどいくはく

長安春日 (曹松)

長安の春日 曹松

浩浩^{こうこう}看^み花^{はな}晨^{あした}

浩浩たり 花を看る晨 六街 遠塵を揚ぐ

塵中^{じんちゆう}一丈^{いちじゆう}日^ひ

塵中 一丈の日 誰か是れ 晏眠の人

御柳^{ごりゆう}垂^た著^つ水^{みづ}

御柳 垂れて水に着き 野鶯 啼いて春を破る

徒云^{いたす}多^{おほ}失意^{いしつ}

徒らに云う 多く意を失すと 猶自 秦を離るるを惜しむ

ゆるされし朝よそほひのひとときを 君に歌へな 山の鶯 (與謝野晶子)

半紙部規定課題A

3月25日正午必着

露 淮
魚 苔
淺

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

3月25日正午必着

行書



隸書



明石春浦先生書

草書



行草書



世の中はいつたいどうなっているのだろう 東西にはるか離れて過す私たち
いつもすぐにも会えるかと思いつながら かえってながく便りもないということになってしまっ
田の麦は深く茂って雉をかくし 淮河の苔むす岸辺、水浅くして魚が見えている
懐しく思慕しながら会うことができないままに あのさやかな月が幾たび満ち欠けたことか

寄友人一

張 蟻

世道復何如

東西遠索居

長疑即見面

翻致久無書

旬麥深藏雉

淮苔淺露魚

相思不我會

明月幾盈虛

友人に寄す

張 蟻

世道復た何如

東西 遠く索居す

長に疑う 即ち面を見るかと

翻つて致す 久しく書無きを

旬麥 深く雉を蔵し

淮苔 浅く魚を露わす

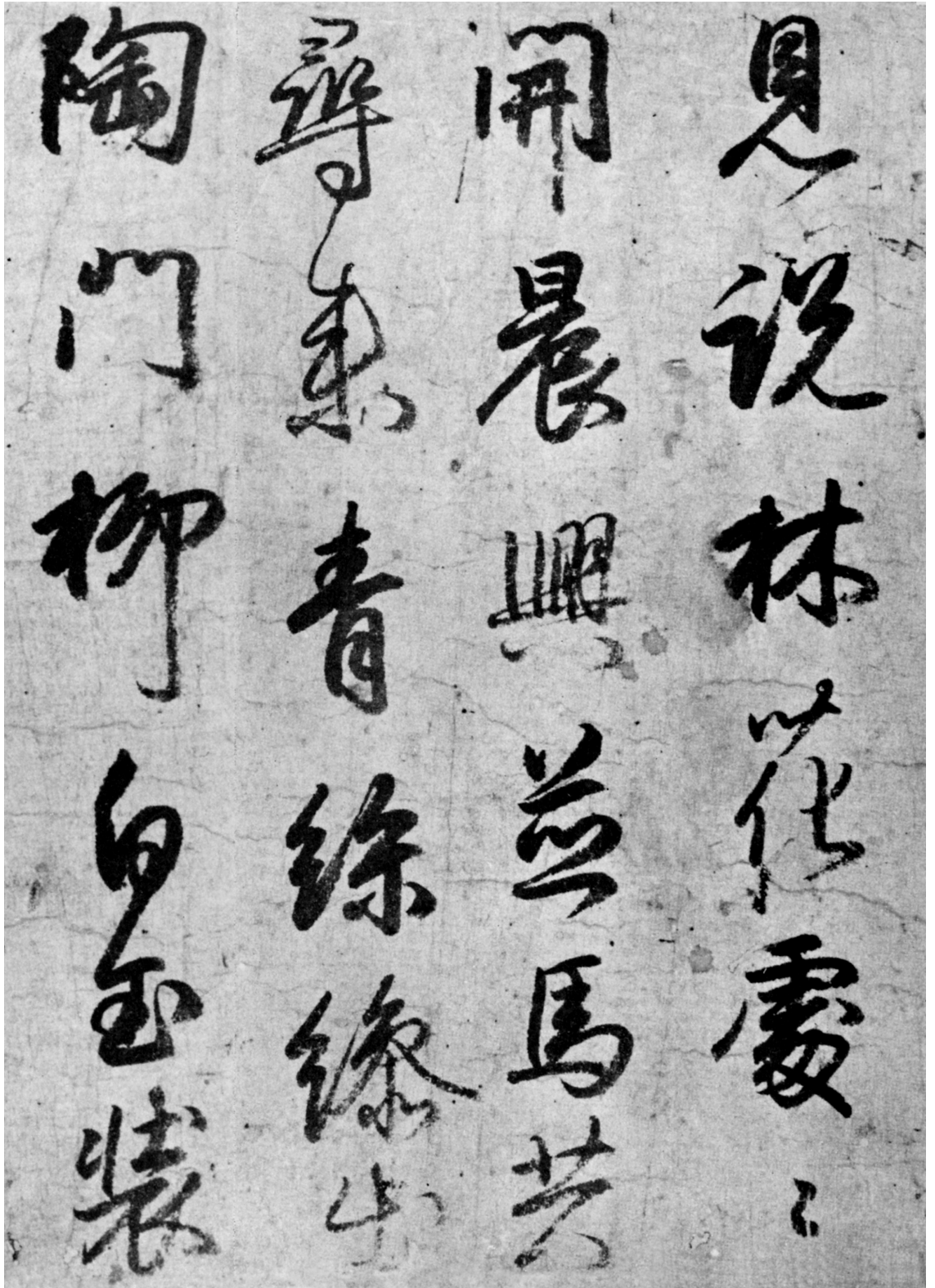
相思えども 我と会せず

明月 幾たびか盈虚せし

(出典)

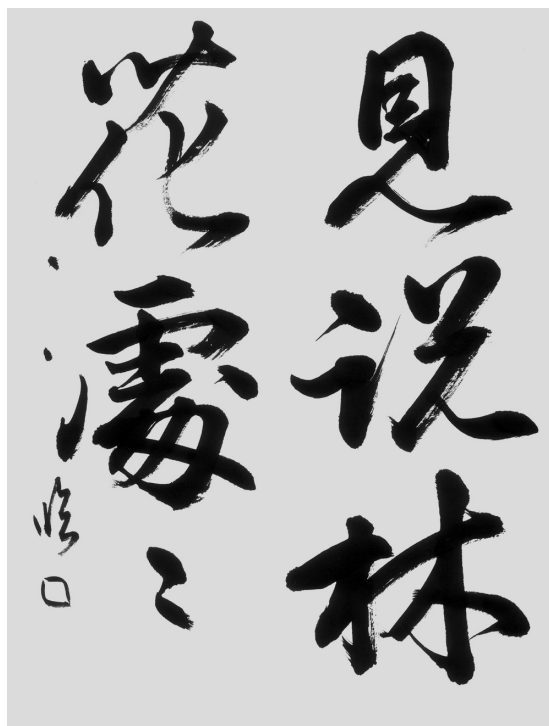
朝日新聞社刊

「三体詩」下より

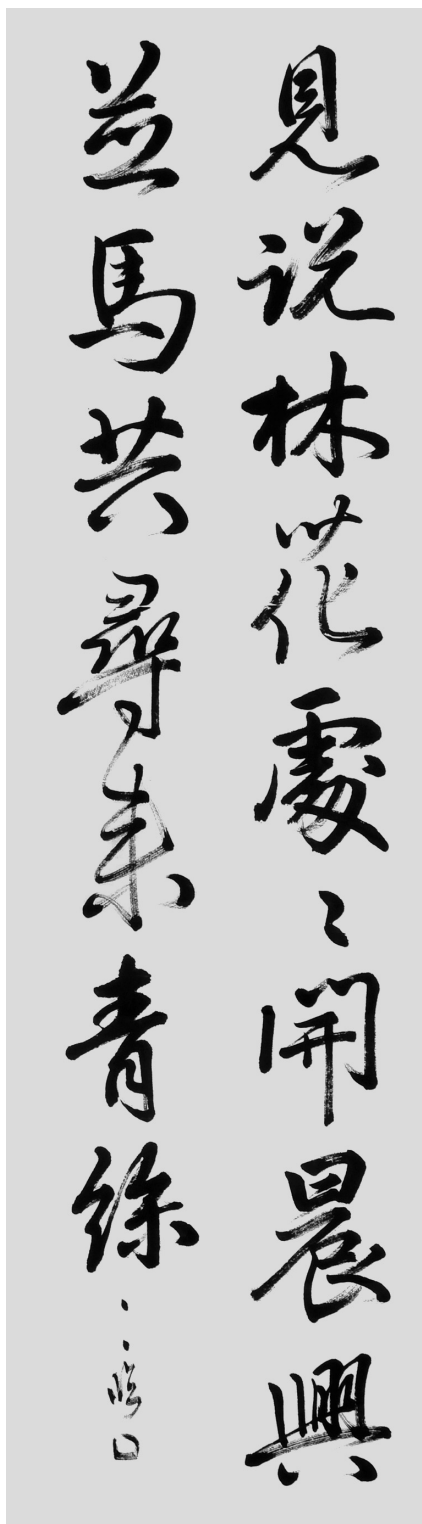


見説林花處々開 晨興並馬共尋來 青絲繚出陶門柳 白玉装…
 見説らく林花処々に開くを。晨に興き馬を並べ共に尋ね来る。青糸
 繚り出だす陶門の柳。白玉装い…。

3月25日正午必着



見説らく林花処々（に開くを。）



見説らく林花処々に開くを。農に興き馬を並べ共に尋ね来る。青糸（縋り出す陶門の柳。）

平安 小野道風・屏風土代

小野道風は、平安時代の能書家であり三跡の一人に挙げられる。小野篁の孫にあたり、能書の故をもって、醍醐・朱雀・村上の三朝に歴任した。彼の筆跡は野跡といわれ、その時代の社会情勢を反映し意識的に日本風の書を書こうと努力した。

温順優雅な道風の書風は、藤原佐理・藤原行成に受け継がれ、純日本風の書として確立するに至る。

この作品は、醍醐天皇が宮廷に置く屏風の揮毫を、当時第一の能書家・小野道風に命じて作らせたものである。完成した屏風は現存しないが、その下書きである「土代」が伝えられている。本来は色紙形の用紙であったと推測されるが、現在は卷子本として仕立てられている。

大江朝綱の七言律詩・絶句が百七行にわたって書かれているが、下書きであるため所々に書き入れや修正が見られ、道風の書作における苦心・工夫の跡が感じられて面白い。

中国書道の影響を強く受けた三筆の書とは異なり、豊かで温みのある書風ではあるが、線によみやすぎがなく、緊張していることを理解し、学ぶことが大切である。（春廣）



かん
観

ばい
梅

中学一年

雨宮春聲先生書



そつぎょうぶんしゅう
卒業文集

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



おん
温

わ
和

小学五年

榎戸春龍先生書



おん
恩

し
師

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

3月25日正午必着



あん
安

しん
心

小学三年

藤田幸春先生書



しろ
白

ざけ
酒

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

を

小学一年・幼年



森戸春濤書

さん がつ
三 月

小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

にふじ山が見えます	天気がよくれば遠く
-----------	-----------

小学五年

新しい門出へと旅立つ	香りよき花束を胸に
------------	-----------

小学六年

草花が校庭に咲いた	春のおとずれを告げる
-----------	------------

中学

木々が芽を吹き出す	雪が消え春が訪れると
-----------	------------

一般(級位)

雪のなげともいまだ ふる雪に 杉の葉しろきあふさかの山(後鳥羽院)	雪のなげともいまだ ふる雪に 杉の葉しろきあふさかの山(後鳥羽院)
-----------------------------------	-----------------------------------

雪のなげともいまだ ふる雪に 杉の葉しろきあふさかの山(後鳥羽院)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

れ	ひ
	し
ひ	も
な	ち
ま	
つ	あ
り	ら

幼年

て	森
	り
り	ん
す	こ
を	う
み	え
た	ん

小学一年

プ	家
を	ぞ
作	く
り	で
ま	グ
し	レ
た	ー

小学二年

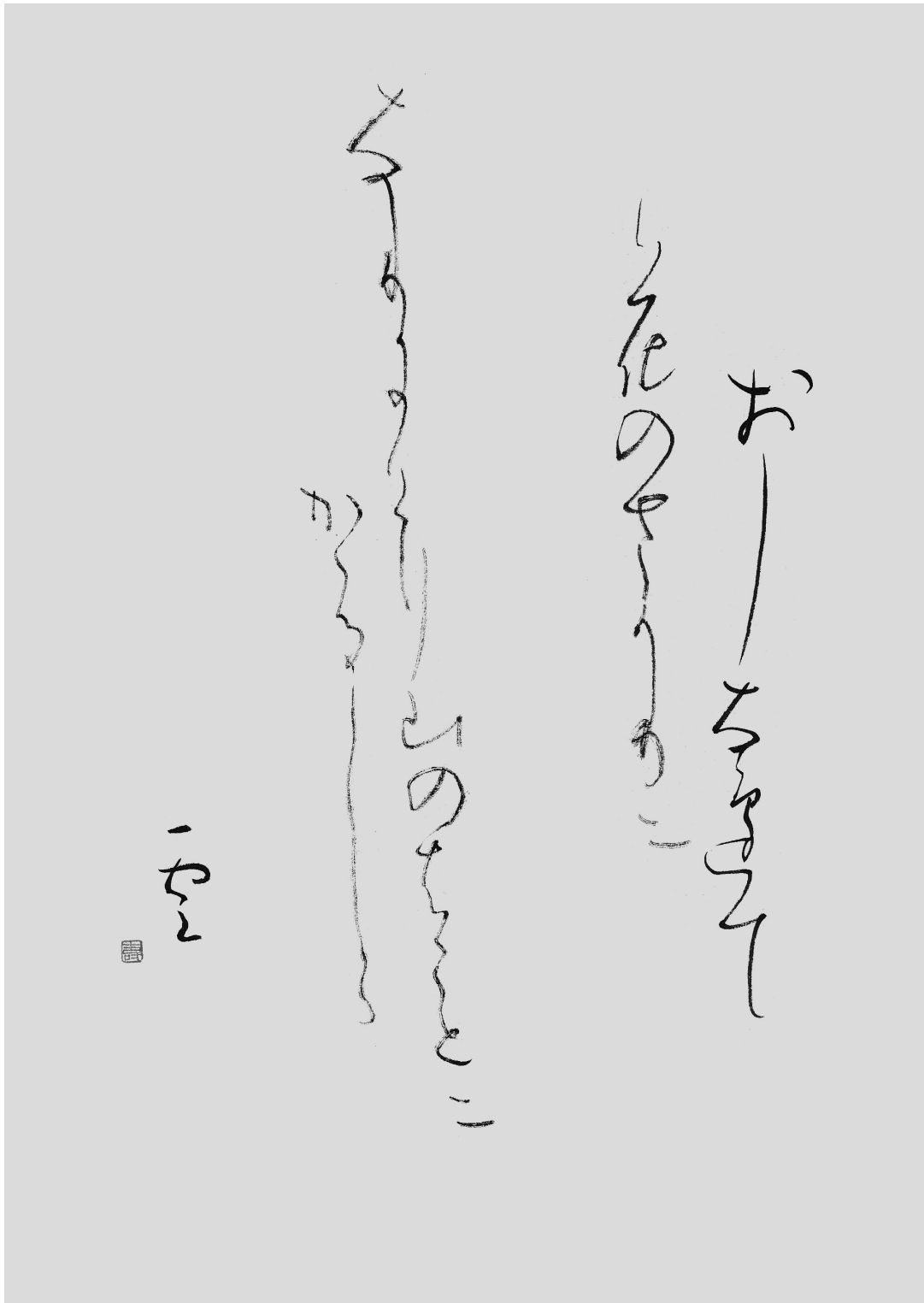
し	科
ん	学
歩	は
し	年
て	ご
い	と
る	に

小学三年

花	つ
を	く
か	え
ざ	の
り	上
ま	に
し	一
た	輪
	の

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



おしなべて 花のさかりに 山のごとにかゝるしら雲 (西行法師)
 奈邊 可利二 奈利尔介 者 二

岩本景楓先生書